

あとがき

会報も 25 号となり、毎年、半年おきに 6 月と 12 月に計 2 号を掲載することがようやく軌道に乗ってきました。6 月の会報は、前年末に行われたシンポジウムの演者の方に書いていただいた原稿を中心に、12 月は会員の投稿による論壇を中心にまとめています。今号は昨秋に行われたシンポジウム「転換期の日本社会と食料・農業・農村基本計画 2015」を特集とし、6 人のシンポジストの方に原稿を書いていただきました。皆様ぜひお読みください。

私事ですが、糖尿病対策も兼ねて、かれこれ 10 年近くウォーキングを続けていますが、東京の武蔵野台地を流れる川も用水も、東京低地を流れる川も殆ど歩き尽くしましたので、現在は、富士塚のある神社を探して歩いています。孫が写経をしている幼稚園に東京都内の富士塚を全部歩いた、という老婦人がいて写経に来ているとのことで、彼女と対等に富士塚の話をするには相当数の富士塚を歩かなくてはと思い歩いています。孫と一緒に 60 か所以上を巡ったので、そろそろ会ってもいいかなと思っています。富士塚は富士山信仰が盛んになり、富士山に登る余裕のない人は、富士講なるものを形成し、毎年、代表が富士山に登る代わりに、他の人は地元の神社に富士山様の小山を作り、それに毎年登拝することで、同じ霊験があると信じられていました。都内の富士塚は、現在では 100 近く残っていますが、かつてはもっとたくさんあったようです。ただ残っていても網囲いして中に入れないとこもありますし、最近の道路拡張の影響を受け、神社が後退し残ってはいるものの富士塚は消滅したケースもあります。おそらく富士講そのものがもうないのでしょう。ただ一覧表を見ていると何故だかわかりませんが、東京都の郊外に多いのは事実ですが、その理由は今もってわかりません。誰か教えてください。これからは城跡を探して歩くつもりです。

(會田勝美)